



# 春 江 だ よ り

3 月 号

令和 7 年 2 月 28 日

## 希望の春に向かって

校長 小林 麻子

先月 19 日から 2 泊 3 日、5 年生と共にウインタースクールで新潟県魚沼市に行ってきました。今年  
は関越トンネルに入る前から雪が降りだし積もっていました。現地では、高さ 2 メートル近くの雪の  
壁の間をバスが通って宿に向かいました。ゲレンデはもちろん雪化粧で、1 日目は雪遊び、2 日目は  
子供たちは大興奮の中スキーの学習を十分楽しみました。

5 年生にとっては初めての宿泊行事となりましたが、友達と共に生活をするにあたり、「自分のこと  
は自分ですること」「自分の役割を果たすこと」をめあてとし、生活班での係の仕事に前向きに取り組  
む姿が見られました。うまくいかないこともありましたが、次にどう行動するか考え、協力しながら  
前に進むことができました。気持ちの良い返事や挨拶ができた 5 年生。成長を感じた 3 日間でした。

2 月は、本校の卒業生で、パリ 2024 パラリンピック競技大会に出場し、400 メートルとユニバーサ  
ルリレーで 4 位に入賞した松本武尊選手に学校を訪問していただき、全校児童の前で競技のことやご  
自身のことについてお話をしていただきました。身長 181 センチの松本選手が「JAPAN」のユニフォ  
ームを着て体育館に入った瞬間、子供たちは目を輝かせ、大きな歓声と拍手でいっぱいになりました。

松本選手は、小学校の卒業文集の中で、将来はオリンピック選手になりたいこと、そしてその夢に  
向かって一生懸命努力したいことを書かれ、中学、高校と陸上部に入ってまさに有言実行されていま  
す。ですが、その過程において、病気の発症、そして障害に向き合うことが松本さんにとって乗り越  
えなくてはならないものとなりました。当初は歩けない、車椅子を使用するつらい状況だったそうで  
すが、「陸上で自分を変える」という思いから新たな挑戦をスタートし、数々の日本記録、アジア記録  
を更新されています。お話の中で、「過去のことよりも先のことを考える。1 分 1 秒、その時その時を  
大切に今できることを精一杯行うことを大切にしている」ということ、「つらいことを乗り越えた原動  
力は友達の支えだった」という言葉が大変印象に残りました。子供たちの心にも強く響いたことと思  
います。講演が終わって、松本選手は、「素直な気持ちで質問する子供たちの心がピュアで嬉しかった。  
そして、前向きに頑張る気持ちが伝わってほしい」と話されていました。現在、仕事と練習を両立さ  
れながら、次のロサンゼルス 2028 パラリンピックを目指しているそうです。これからもご活躍を  
期待しましょう。

今年度も残り 1 か月となりました。1 年間で子供たちは学習面、生活面で様々な成長が見られまし  
た。これから子供たち一人一人が 1 年間で振り返り、進級、進学に向けて夢や希望をもてるようにし  
ていきたいと思えます。そしてその実現に向けて自分はどうしていくかを考えて目標を立て、チャレ  
ンジし努力してほしいと思えます。学校は、1 年間の教育活動を振り返り、子供たちの笑顔のため  
により良い教育活動を行えるよう、次年度に向けて計画を立てています。子供たちのやる気を引き出し、  
良い学びにつないでいけるよう、教職員一同努力してまいります。

6 年生は卒業に向かって一つ一つの行事に心を合わせて取り組み、小学校の集大成を迎えようと  
しています。1 年生から 5 年生の児童は、自分の成長を振り返り、進級への期待を膨らませています。  
全校児童の心を一つに、希望の春に向かって準備をしっかりと行っていきます。

今年度も保護者、地域の皆様のご支援をいただきました。心より感謝申し上げます。